

第2回名張市総合計画審議内容の要点とその対応（事務局案）

序論

第1節 策定にあたって

（1）計画改訂の趣旨

- ・人口、財政などの外的要因だけでなく、住民自らがすべきことを計画に入れるために改定するのだというようなことを新しい計画に入れる。

原案では、「まちづくりを進めるための新しい協働の仕組みづくり・・・が必要となっていることから」と表現している。この部分（改訂の趣旨）では、計画内容に踏み込まず、この程度の包括的な表現にとどめたい。

第2節 社会潮流と名張市の可能性

- ・計画改定の趣旨からすると、基本指標である人口と財政が当初の計画と大きく異なってきたということが新しく計画を策定する理由であると思う。人口的ストレスについては序論を貫いて数行記載があるが、財政的ストレスについては、触れられていない。第2節で財政について触れておくべき。

「三位一体の改革」が議論されている状況下で、基本構想の序論部分で10年余にわたる財政見通しを明らかにすることは、（技術的にも、現実的にも）問題が大きいことから、基本計画（計画期間6年間）で参考資料として提示したい。

名張市の現状という項目を起こすことは可能であるが、そうなれば人口、教育、福祉、産業、土地利用、都市計画等々のことがらを無視できず、極めて冗長な序論になり望ましくない。（加えて、現状分析から将来を展望する手法は激しい時代変化に対応できず、あまり適切とはいえない。）

以上のことから、十分な対応ではないが、「1．社会潮流（6）地方分権社会の進展」「2．名張の可能性（5）自主自立のまち」に修正を加え、厳しい財政状況について言及する。

第3節 まちづくりの課題

課題抽出の視点について

- ・重点課題というのは、住民が何を望んでいるかということ踏まえて、すぐに対応しなければならぬ防災、安全、健康といった切実な問題を重視して抽出、整理すべきである。
- ・重点課題は20代、30代、子どもの視点が欠けていると感じる。
- ・重点課題を3項目でまとめるのは無理があると思う。教育、防災の問題などを含め、もう少し増やした方がよいのでは。

総合計画はまちづくりのビジョンや基本的な方針を明らかにするための計画であり、教育・防災・都市・環境・産業・福祉・交通など、さまざまな分野の施策を総合化し、戦略的・計画的な施策展開を行おうとするものである。したがって、課題の抽出にあたっては、教育、防災、産業などそれぞれの分野の課題や重要性に着目するよりも、広範な分野を結びどのような目標・方針でまちづくりに取り組んでいくべきかという視点から、できるだけ包括的に課題を抽

出することが望ましいと考える。

また、原案では市民意識調査結果等を踏まえ、一定の基本的なニーズ（シビルミニマム）は満たされているとの認識のもとに今後のまちづくりの方向を考える視点から課題を抽出している。例えば「モノの豊かさから、心の豊かさへ」ということは、モノの豊かさを軽視する意味ではなく、モノの豊かさを前提に、今後より高次のニーズ（心の豊かさ）へ対応していく必要があるということである。

いずれにしても、さまざまな視点から課題を抽出することは可能であり、その適否は一概に判断できないことから、将来像やまちづくりの方向等について審議いただいた上で、改めて見直すことにしたい。

尚、基本構想では長期的な視点から何を目指すべきかを明らかにすることを目的としており、緊急性や優先順位を踏まえた施策展開やプログラムについては、その時々的情勢を踏まえて実施計画等に定めることにしている。

暮らしの安全・安心は極めて重要であることから、まちづくりの理念や将来像の適切に表現できるようにしたい。

1. 基本的な課題

(4) 少子・高齢化への対応

- ・少子高齢化の対応について、この文面からはあまり読み取れない。
- ・少子高齢化の課題として、現行計画と同様に子育て、青少年の健全育成といったようなことを加えるべきである。

（現行計画に比較して）原案ではできる限り序論の部分は簡潔にする方向で取りまとめている。全体のトーンを合わせるため、課題についても同様の考え方で取りまとめ、少子・高齢化への具体の対応については、本論の政策展開等で記述することにしたい。

<教育>

- ・教育について、特に地域の教育という部分が少ない。若者は出て行くものだが、戻ってくる可能性も含めて、基本的な課題の(9)として、名張独特の教育、文化の項目を起こすべきである。
- ・名張の伝統などふるさと意識を醸成し、子どもたちにどう引き継いでいくかということがこれから若い世代が定着していくポイントになると思うので、教育の充実について盛り込むべきである。

- ・学校教育は学校教育、家庭のしつけは家庭のしつけと切り離してはうまくいかない。地域がもっと学校に関わっていかないと大変心配な状況で、やはり教育を重点課題として取り上げるべきだと思う。教育委員会の大改革というようなことが急務ではないかと思う。

教育の大改革を進める必要があり、本論の部分で一定の方針を定めることになれば、基本的な課題又は重点課題として追加する。地域の教育力、ふるさと学習等については、「基本的な課題(2)地域特性を生かしたまちづくり(7)住民主体のまちづくり」及び「重点課題2.名張ならではの潤いのある暮らしの創造」の一部を修正し、必要な記述を加える。

序論の部分の議論ではなく、むしろ本論の計画内容にいかん盛り込むかということが重要であることから、リーディング・プラン等に反映できるようにしたい。

2. 重点課題

(1) 豊富な人材の活用

- ・「活用」という発想・考え方は適切でない。豊富な人材が活躍する場、仕組みなどを創造していくという考え方のほうがこれからの社会づくりの方向である。
- ・都市内分権について表現しておく必要がある。
- ・「時間的、経済的にも余裕のある多くの人々が……」という文言が気になる。年をとったからといって時間的、経済的に余裕があるとは限らない。
適切な表現に修正する。
尚、各種調査結果では、高齢者は他の世代と比較して、時間的、経済的に余裕があるといえる。

(2) 名張ならではの潤いのある暮らしの創造

- ・文化資源の活用ということが書かれているが、文化は継承していきはじめて地域文化になる。今ある文化を活用するというだけでなく、継承していくという視点が必要。
- ・「名張ならではの」潤いある暮らしと書かれているが、名張ならではのことはすべての前提に置いているということから考えると、1と2は暮らしということになるので、どこかでまとめて、今まで出てきた議論の中での重点化を図るという方法もある。
当面、地方都市は大都市との間で定住人口の確保をめぐって厳しい競争にさらされることになる。若者をはじめとする定住人口の確保、集客力の向上等を図り、持続可能なまちづくりを進めるためには、大都市を中心とするピラミッド型の地域構造から水平的なネットワーク型の地域構造への転換が必要であり、大都市とは異なる、地方都市の魅力を見直し、磨き、発信していくことが強く求められている。したがって、ここでは、特に「名張ならではの」にこだわり、強調して表現しておきたいと考える。

(3) 自治体間競争を生き抜く戦略的な地域経営

- ・「あれかこれか」の選択という表現は違和感がある。
適切な表現に修正する。

第1章 まちづくりの基本理念

- ・パブリックコメントでも意見があったが、「人間尊重」という表現は今まで尊重していなかったのかというような感じがしてどうかと思う。心がふれあうというような表現でもよいのでは、全体的に表現がかたい。
まちづくりの基本理念は、まちづくりの基本に据える考え方を明らかにするものであり、これまでの取り組みが十分でなかった等の視点から検討していない。自立（自己実現）と支えあい（公共の福祉への貢献）という普遍的な理念、市民が主役のまちづくりとあわせて、産業社会の中で喪失してきた人間性の回復を目指すという観点から、まちづくりの理念には「人間尊重」という表現は不可欠であると考えます。

第2章 将来都市像とまちづくりの基本的な方向

第3章 土地利用構想

○産業振興について

- ・まちづくりの基本方向、土地利用構想等の中で、市民生活を支える経済、産業、財政についての柱がないので追加すべき。

原案では、名張の地域特性と理念（福祉の理想郷＝市民の幸せ）を踏まえ、将来像を「…暮らしのまち＝生活都市」としている。この将来像を実現するために、まちづくりの方向等については、心豊かな暮らしを創造することをポイントに、集中的な取り組みを図る方針のもとに、できる限り絞り込んでいるが、同時に、このことが本市の経済的な活力や産業振興に結びつくものと考えている。本市の交通や地理的条件、産業の推移（第1次・2次産業から第3次産業へのシフト）を踏まえれば、今後とも医療、福祉、情報、教育などサービス業の成長が見込まれ、人間や暮らしに関わる政策展開や高齢者をはじめとする多様な市民の活発な活動を促進することが、産業の振興につながり名張の活力を高めることになると考えている。

尚、産業振興という視点では記述していないが、中心市街地の整備（既成市街地・鴻之台など新市街地）は、第3次産業の振興に大きく寄与すると考えている。

産業振興の議論については、別途資料により整理。

第4章以降の戦略・政策・施策展開の方向等に関する事項

<都市内分権>

- ・都市内分権について表現しておく必要がある。自立協働といわれるが、これまでのやり方の延長でなく、住民に権限移譲し、それなりの予算措置も考えて、住民にまかせていくというプロセスが大切。

都市内分権の推進はこの計画の重要なテーマと考えており、そのことを踏まえて原案を策定しているが、内容、表現について検討いただきたい。

<高齢社会>

- ・高齢者が安心できるような内容を入れるべきである。
- ・自治体間競争を生き抜くということになれば、名張市独自の発想をしていかなければならない名張は福祉の理想郷として、少子高齢化に対応するための独自の方針を明確化しておく必要がある。
- ・今ボランティアは特定の地域に配食しているが、ボランティアを活用することで経費をうかし給食センターをつくるなど、全地域に配食できるような仕組みをつくってもらいたい。

人間の尊厳を基本に、地域福祉の充実をはじめとして男女共同参画や共助の仕組みづくりが重要であるとの考え方のもとに原案を作成しているが、内容についてさらに検討いただきたい。配食サービス等具体的な施策展開は基本計画等で定めることにしているが、（財政的な側面だけでなく、質の高い暮らし・社会を創造するためには）高齢者福祉をはじめとして、福祉の充実を図るためにはボランティア活動や地域福祉の充実など共助の仕組みを整えることが重要であるとの考え方のもとに原案を策定している。

<防災>

- ・防災については、行政がやるべき部分と地域づくり協議会やボランティアなど地域のネットワークでやるべき部分がある。ボランティアのネットワークの構築など市民セクターの役割

を重視していく必要がある。

- ・防災に関連して、これだけ多くのボランティアのかたがおられるのに災害時のネットワークがない。いざというときに給食ボランティアなどの協力が得られるようなネットワークをつくっていくべきである。
- ・行政まかせのまちづくりの時代から、市民セクターが担うまちづくりに着目していく視点が重要である。

阪神淡路大震災の経験からも同様のことが重要であるといわれており、そのような視点から施策を展開していく方針であるが、内容についてさらに検討いただきたい。

< 教育 >

- ・教育に関わって、先日報道特集で埼玉県志木市の話題が取り上げられていた。教育委員会はいらないという内容で、少し乱暴かもしれないが内容を勉強して参考にすべきである。
- ・学校教育だけでなく、これからは厚生労働省と教育委員会が一緒になって考えていかないといけないと思うので、幅を広げて検討すべき。

まちづくりの理念の「人間の尊厳」、「新しい公」、まちづくりの方向で記述した「共助」「共生」「共創」の3つのキーワードが家庭や地域における子どもの教育や健全育成につながるの考え方で、原案を作成している。地域の教育力の強化、道德教育、学校と地域、家庭の連携、愛郷心（ふるさと意識）教育委員会のあり方、総合的な青少年の健全育成の取り組みなどについて、さらに議論をいただきたい。

< 中心市街地の位置づけ・整備 >

- ・名張に来て一番思うのは、旧来の町場を活性化させるべきだということ。大阪から伊勢まで2時間かかるが、名張は1時間で来られる。大規模な旅館というのではなく工夫して、駅から一番近いこの町場を滞在型にし、これだけの自然環境と文化などが結びついていけば、おもしろい観光になると思う。心のゆとりを持つ場を提供できるという意味で、大きな意味の福祉にもつながるのでは。
- ・中心市街地の商店街について、デンマークでは価格が高いにもかかわらず、あえて中心市街地で買い物をする人が多い。なぜかと言うと、郊外店でばかり買い物をしていると、中心市街地がなくなり、いずれ車に乗れなくなったときに自分たちが困るから。中心市街地の商店街の問題というのは産業の育成、広域商業の育成のみならず、福祉とも関係してくると思う。その商業の視点が少し抜けているのではないか。

名張市の地域個性を輝かせ、魅力ある生活都市を創造するためには中心市街地の再生が極めて重要と考えており、リーディングプランにも掲げている。中心市街地の再生を図るためには、歴史、文化、自然など地域資源を徹底的に磨き、既成市街地の魅力を高めることが必要であると考えており、こうしたまちづくりの取り組みと一体的に、商店街の振興、集客力の向上等を図る方針であるが、さらに議論いただき計画に反映するようにしたい。